

令和3年度東広島市教育委員会事務事業評価会議の概要

令和3年8月3日に、令和3年度東広島市教育委員会事務事業評価会議を開催しました。
同会議の質疑の概要は、次のとおりです。

※「出席者」…東広島市教育委員会事務事業評価のために依頼した学識経験者
「事務局」…東広島市教育委員会事務局職員

1 質疑応答

点検・評価の方法等（2ページ）

出席者：資料の見方についてだが、目標値は、令和2年度の単年度の数値か、それとも第2期教育振興基本計画の終了時の数値か。

事務局：単年度である。

出席者：「A」、「B」、「C」の評価基準は、何か個別の基準のようなものがあるのか。

事務局：数値だけでは表せないものについては、多少評価を変えているところはある。

出席者：目標値は、どのような考え方をベースに設定しているのか。

事務局：国や県が出している目標値を踏まえて、本市の現状を踏まえた上で設定している。

出席者：目標値と現状値を比較することによって評価が決まるというシステムをとるのであれば、数字というものは明確であるため、目標値は非常に重要である。評価基準で、目標値を上回っていなくても、達成していれば「A」だと言い換えることができるのであれば、そうしたほうが、正当な評価につながると思う。

(1) 教育総務課の事務事業

ICT等学習環境整備の促進（16ページ）

出席者：学校の通信帯域における同時利用率が、目標値50%に対して現状値が25%と、若干厳しい数字になっているが、改善の方向性はどうか。

事務局：今年度、回線の増強並びにアクセスポイントの追加及び性能の向上に向けた工事を計画しており、これによって目標値に近づきたい。

(2) 学事課の事務事業

教職員が働きやすい環境の整備（12・13ページ）

出席者：配置必要校への教職員等の配置率について、目標値が90%とあるが、配置を必要とされているのだから100%とするのが好ましいと思う。

事務局：100%に修正するよう、検討していきたい。

出席者：教育振興基本計画の第2期は、いつまでか。

事務局：令和5年度までである。

出席者：この目標値は、初年度から100にするのではなく、年度を追うごとに数字が上がっていくのか。

事務局：その方向で整理し直したい。

(3) 学校給食センターの事務事業

健やかな体の育成 (6・7ページ)

出席者：給食の食べ残しの活用などの状況は改善されているのか。

事務局：堆肥化の仕組みを市長部局と協力して進めている。

出席者：学校によっては、食べ残しをなくそうとしているところもあると聞いている。学校によって差があるように思うがどうか。

事務局：全部食べることが絶対というわけにはいかない場合もあると思うが、必要な栄養素であるので、可能な限り食べてもらえるように対応していきたい。

(4) 指導課の事務事業

確かな学力の育成 (4ページ)

出席者：教育振興基本計画には、「「夢と志」を持ち、グローバル社会をたくましく生きる人材の育成」というのが大きく掲げられている。英検3級程度以上の英語力を持つ生徒の割合を増やすということだが、今の小学生や中学生が大きくなる段階では、英語が日常的に、もっと生活に生きた形で必要となると思われる。それに向けて、もっと英語を一生懸命頑張ってみようという事業や方向性があってもよいのではないか。

事務局：今年度、1人1台タブレットに合わせて、小学校では「Speaking Quest」という教材を入れている。これは、子どもたちが話すことについて、タブレットを用いて、興味関心を高めながら学ぶことができるものである。中学校については、「基礎英語LEAD」という教材を入れている。これも、子どもたちが、色々なネイティブの発音をタブレットから聴くことなどによって、身近な段階で英語に親しむということを始めている。これ以外に、昨年度は実施できなかったが、「丸ごと1日英語体験」ということで、ALTと一緒に1日レクリエーションをして英語に親しむ場の設定や、国際交流を目的とした取組を行っている。

出席者：もっとグローバルな人材を育てるというか、そういうものがあっても良いのではないか。

事務局：検討したい。

事務局：1点申し上げると、英検3級程度以上の英語力については、文科省の50%という目標値に対して、60%を目標値に設定していて、実績は58%だが、これは県内ではかなり高い数字である。達成率がBであるが、このことはご承知いただきたい。

出席者：目標が高いがために、他の所より達成しているのに評価が悪いという現象が起きてしまっている。一方で、高い目標を掲げるのは、引っ張っていくためにはいいことではある。その辺りが難しい。

教職員が働きやすい環境の整備 (12・13ページ)

ICT化による校務の効率化及び教育の質の向上 (15ページ)

出席者：部活動指導員の配置について、教員が多忙である原因として部活動、課外活動等の全てを担っていることが指摘されており、部活動指導員の設置を積極的に進めるという市の方針は、大変いいことだと思う。14人の目標に対して結果的に4人し

か採用できなかったが、来年度以降、目標に近づけるような目途はあるか。

事務局：国や県の補助金も受けて配置しており、14人で申請したが、結果として4人分しか出なかった。これ以外に、市独自で、スクールサポーターとあって、退職した先生や地域の方に部活動の支援を行っていただくような体制を進めている。

出席者：以前は、全国体力・運動能力等の調査などは、全国の結果のほか、県との比較もあったような気がする。身近な広島県の調査の結果を入れてもらおうと、東広島市は一生懸命頑張っているということが分かると思う。また、指標に児童生徒の回答の割合を設定しているものがあるが、何が根拠になっているのか。

事務局：児童生徒にアンケートをとっており、前年度の状況を基にして次年度の目標値を立てている。

出席者：根拠になったものを記載すると良いと思う。

出席者：「学校に行くのが楽しいか」というアンケートの項目で、小中学校の先生の約20%が「当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と回答したとのことだが、大きな問題だと思う。是非改善をお願いしたい。

事務局：仕事の負担が大きいとか、悩みがあるとか、そういうものがこの数字に表れている。悩みを持っている先生が5人に1人いる、という捉え方をしている。

出席者：教職員は報酬を受けて仕事として行っている。楽しいとか、楽しくないとかいう質問をするのは、ふさわしくないのではないかと。一般に公開するのであれば、適切な言葉を選ぶ方が良いと思う。

事務局：今年度も実施する予定であるので、設問の仕方は検討したい。

(5) 生涯学習課の事務事業

持続可能な生涯学習施設の運営（21・22ページ）

出席者：中央図書館のゾーニングの見直しの記載があるが、具体的な計画があるのか。

事務局：飲み物を飲みながら図書館の本を読みたいというニーズがあり、今年度、そのコーナーを屋外に整備していく計画である。また、1階に、子どもが自由に本を広げて読むことができるコーナーがあるが、2階と吹抜でつながっているため、声に関する苦情がある。保護者も利用を遠慮されるため、子どもが多少声を出しても支障にならないような専用の部屋を整備していく計画である。また、中学生になると図書館の利用率が下がるため、中高生の利用者も増やしていきたいと考えており、ヤングアダルトコーナーを作るなどして、全体の見直しをしていきたい。

出席者：電子書籍の導入については、どうなっているか。

事務局：電子書籍については、平成28年頃から導入しており、昨年度当初で約600コンテンツを整備していたが、コロナの関係で、図書館に本を借りに来ることができないという状態になったため、補正予算で500コンテンツを追加した。とはいえ、昨年度末でまだ約1,300コンテンツしか整備できていないため、引き続き、良いコンテンツがあれば、増やしていきたい。

出席者：電子書籍になっていないものがまだまだ多いが、コロナによって電子書籍の有効性が見直されて、県立図書館なども導入を進めている。今後、そういう流れになると思う。

(6) スポーツ振興課の事務事業

(質疑なし)

(7) 文化課の事務事業

文化財の保存、整備、活用 (26ページ)

出席者：課題として、職員の高齢化及び退職を挙げているが、後継者の確保についてどのように考えているか。

事務局：できるだけ若い、専門的な知識を持った職員の採用を働きかけていきたい。

出席者：文化財は、ある程度専門的な知識が必要になってくる。各自治体を見ると、市史編纂など、専門的な方が文化財の部署に配属されているかどうかによって、進捗や内容の充実度が、比較してみるとよく分かる。東広島市は、その点はしっかりしているほうの自治体だと思う。文化財は、一度途切れてノウハウが共有できなくなると、立て直すのが非常に難しいものの一つだと思うので、ぜひ、東広島市の財産として、文化財についての継承ができるような職員の方を配置できるように、努力していただきたい。

(8) 青少年育成課の事務事業

家庭の教育力の向上 (23・24ページ)

不登校児童生徒の教育支援の充実 (23・24ページ)

出席者：青少年育成課が生涯学習部に移ったが、指導課との関係で評価するのに難しいところがあるのではないか。指導課の説明にはなかったが、例えばスクールソーシャルワーカーの相談回数については、目標値が1,500回で現状値が2,044回ということで達成率を「A」としているが、その捉え方が気になる。スクールソーシャルワーカーが地道に一生懸命に取り組んだからなのか、それとも、そういう家庭の問題が多くなっているのか。青少年育成課とのつながりの中で、現場はどこに頼んだらいいのか右往左往しているところがあるようで、評価の在り方と一緒に考えてもらいたいのではないか。

事務局：機構改革が今年の4月に行われ、青少年育成課が生涯学習部に移り、成人式や青少年育成の市民会議などは青少年育成課の事業に残っているが、生徒指導に関する事業については、指導課に移管された。承って、指導課に伝えておく。

出席者：いつか、不登校の率を減らすということであったが、果たしてそれが正しかったのかどうかという議論もある。

事務局：時代の変化が激しくて、2年前に作った教育振興基本計画で設定した目標が、既に対応しきれなくなっているものも一部あるように感じており、ご指摘いただいたとおりでと思う。その辺りも少し修正をする必要があると思う。

2 総括

出席者：子どもが学校に楽しく行けるように事業を計画していただいていることを感謝している。

出席者：せっかく苦勞して行った事業評価を生かしていただきたい。数値が増えたからい

い結果が出たというのではなく、増えた原因は何かということ、もう一度吟味して、次の年度に生かしてもらいたい。

出席者：コロナ禍の中、色々な面で大変だったところを頑張ってこられたことについて敬意を表したい。「夢と志」を持ち、グローバル社会をたくましく生きる人材の育成」には壮大な思いが込められていると思うが、色々な知恵を絞っていただくことによって、東広島市の存在感というか、いいものを発していけると思う。大いに期待したい。

出席者：他の委員がおっしゃったように、数値だけではなくて、その数値をどう解釈して、そこから何を導くのかということが大切である。やはり、課題はきちんと見つけて、次に生かさなければならない。しかし、行っていることはきちんと評価していただかなくてはいけない。それが仕事のモチベーションにつながり、次のいい仕事につながると思う。数字だけ独り歩きして本来の正当な評価にならないというのは、避ける必要がある。今後の数値の立て方や、評価指標の求め方において、改善するところはないか、正しく評価するにはどうしたら良いかということについて、考えていただきたい。

上記のとおり、質疑応答の中で個別の事業への意見、協議の中で修正するポイントを指摘いただいたが、具体的な修正内容は教育長へ一任するとの議長の意見があり、他の出席者もこれに同意された。